

森林認証の取得と森林認証審査における指摘について

網走西部流域の国有林（網走西部森林管理署及び西紋別支署管内の19万ha）について、昨年12月に森林認証を取得したところ。しかしながら、絶滅の恐れのある野生生物種の保護について、職員や業者に対する教育・訓練の実施など審査機関から生物多様性に関して弱点等が指摘され、改善が求められた。

記

S G E C 森林認証審査報告書 (H19.12.25) 抜粋

審査機関：日本森林技術協会

<指摘事項>

* 弱点1

対象森林に生息・生育する可能性のある希少種をリストアップし、当該種の識別法、伐採、道路開設時の事前・事後の確認等保護対策を定め、実施する必要がある。

- ・希少種のリストアップ、当該種の識別法：認証取得後1年目の管理審査の際確認。
- ・保護対策：認証取得後2年目の管理審査の際に確認。
- ・対策の定着状況：認証取得後3年目の管理審査の際に確認。

* 弱点2

レッドデータブックをもとに、対象種の写真等を記載したガイドブックを、作成し、職員、請負業者等に配布し、研修等を行って定着させる必要がある。

- ・認証取得後1年目の管理審査の際確認。

* 弱点3

絶滅の恐れのある野生生物種の保護について、職員、請負業者に対する教育・訓練を継続して実施し、知見の向上に努めること。

- ・認証取得後1年目の管理審査の際に確認。

* 弱点4

生物多様性保全、希少種の保護、モニタリング等新たな取組みは緒についたところであり、今後、継続した教育・訓練が必要である。

- ・認証取得後1年目の管理審査の際確認。

* 弱点5

チェックシステム、生態系モニタリングを着実に実施すること。

- ・チェックシステムの定着：認証取得1年目の管理審査の際確認。
- ・生態系モニタリング内容の決定：取得後1年目の管理審査の際確認。
- ・モニタリングの実施：取得後2年目の管理審査の際確認。

* 懸念1

自然維持タイプや国土保全タイプの森林が全体の34%、65,048ha区分されていることから、ここに言う重要な構成要素については、これら機能分類区分に含まれ、保全されるものとするが、重要な要素についての調査が望まれる。

網走西部流域における民有林・国有林が連携した 森林認証の取得

ー 日本最大の森林認証を活かした地域活性化へ ー

平成19年12月26日に、網走西部流域で大きな森林面積を占める、国有林（網走西部森林管理署及び同西紋別支署管内）と道有林（網走西部管理区）において、森林認証（SGEC認証）を取得した。専門の審査機関による現地調査及び審査を経て、12月25日に開催された「緑の循環」認証会議（SGEC）監査委員会の議を経て認証されたものである。

同流域では、平成16年度から地元市町村と林業・林産業界が一体となって私有林の森林認証を順次取得し、森林整備を推進するとともに、地域産材のブランド化を高めて、地域経済の活性化を図る先駆的な取組を進めている。これら地域主導の先駆的な取組みを加速するため、今夏、道有林・国有林が連携して申請していたもの。

今回の認証により、同流域での認証森林は合計約29万ヘクタールとなった。これはこれまでに認証された全国の合計面積（約61万ヘクタール（H18年末集計））の半分に相当する森林にあたり、日本最大の森林認証エリアが形成された事になる。

今後、地域の関係者が結集し、認証森林から供給される認証材を住宅資材等に活用した地材地消の推進などによる地域の活性化や、地域の森林整備の推進に向けた具体的な取組を検討する予定である。

- 網走西部流域
紋別市、雄武町、滝上町、興部町、西興部町、遠軽町、湧別町、上湧別町

- 審査機関
国有林：(社)日本森林技術協会
道有林：(財)林業経済研究所

■ SGEC森林認証面積

H18年度末まで 紋別市有林、会社有林、オホーツク中央森林組合等
合計36千ha 取得済み

H19年度 国有林 191千ha 新規取得
道有林 66千ha 新規取得

網走西部流域



認証森林29万ヘクタール

認証森林面積 293千ha
同流域森林面積に占める
認証森林の割合 77%

問い合わせ先

北海道森林管理局計画課 館(だて) tel.011-622-5241

◎ 緑の循環認証会議「公開フォーラムin北海道」(仮称)開催のお知らせ

■開催予定日時：平成20年5月20日 13:00~

■開催予定場所：北海道大学学術交流会館小講堂

■趣旨：『緑の循環』認証材住宅の拡大・普及を進め、森林資源の循環利用を推進し、地域の活性化の起爆剤にするもの。

■主催者：「緑の循環」認証会議